



下古沢 桜と桃の花  
(撮影：小林会員)

令和 7 年 5 月号 Vol. 253  
(2025 年)

発行：令和 7 年 5 月 12 日

あつぎ観光ボランティアガイド協会

ホームページ <https://atugikanvola.sakura.ne.jp>

メールアドレス [atugikanvola@yahoo.co.jp](mailto:atugikanvola@yahoo.co.jp)

発行責任者 会長 田頭 文昭 編集担当者 澤田 正弘

## <春の恩曾川ハイキング>

行事区分：企画ガイド（ハイキング）

日 時：4 月 28 日（月） 9：30～15：00

場 所：ぼうさいの丘公園～本照寺～三島神社～本禅寺～あつぎつつじの丘公園

参加者：一般 21 名、会員 7 名

2025 年度 1 回目の企画ガイド。五月晴れの中とはいきませんでした。雨の心配もなく穏やかな絶好のハイキング日和。本厚木駅南口 9：15 発のバスに乗り東京農大前でバスを降り、ぼうさいの丘公園で受付。総勢 21 名が参加のシニア集団。先ずは柔軟体操で体を解していざ出発。恩曾川に沿って歩き始めると今では



厚木市の風物詩となった大小の鯉のぼりがお出迎え。私たちが子育ての頃は自宅の庭に竿を立て子供の成長を願い祝ったこどもの日の鯉のぼり。周囲を見渡しても自宅の庭では全く見られなくなり淋しい限り。川沿いを歩いて温水橋にさしかかると「おや？」橋の欄干に鉄琴が備え付けられているではありませんか。

童心に帰って夕焼け小焼けを歌いながら演奏。あれ！字余りならず音余り(笑)。更に川沿いを歩いて高坪橋親水公園。「うーむ」公園と名がついている以上「草を刈って欲しいなあー」。本照寺に参拝。三島神社では総代の方のご配慮で、老人憩の家を使わせていただき、レジャーシートを敷くことなく昼食。本禅寺に参拝してあつぎつつじの丘公園へ。色とりどりのつつじが咲き誇り心身共に癒されての解散。お疲れ様でした。（成田 記）



本禅寺にて

## 《第21回あつぎ観光ボランティアガイド協会 通常総会》

行事区分：通常総会

実施日時：4月16日(水) 13:00~14:25

会 場：アミュあつぎ ルーム610

参 加 者：来賓5名 会員24名

今年は桜の開花が遅れましたが、4月に入って急に温かさを増して満開となり、春の訪れを感じる季節となり、市民交流プラザの会議室において第21回通常総会を開催しました。会員総数31名のうち出席者24名、委任状3名、有効議決権総数の合計27名は会員総数の過半数以上であり各議案の審議に必要な定足数を満たしているため、司会から本総会が成立したことが報告されました。



最初に田頭会長より挨拶があり、続いて来賓として厚木市市長山口貴裕様からご挨拶を頂戴しました。続いて厚木市観光協会専務理事・事務局長小島利忠様からもご丁寧なお祝いのお言葉を頂きました。5分ほどの休憩の後、厚木市商業観光課課長熊坂修様から4月に商業観光課へ着任されたお二人の紹介がありました。

続いて議長が選任され、各議案の審議に入りました。令和6年度の活動報告、会計及び会計監査報告があり、続いて令和7年度の活動方針(案)および事業予算(案)の説明があり最後に役員選任(案)が田頭会長から提案され、会長及び副会長5名並びに監査役の再任と幹事2名の継続と新幹事1名の推薦がありました。その後一括審議して、全員拍手をもってすべての議案が承認されました。昨年度は定点ガイドという新たな活動も加わり、今年度も益々充実したガイド活動が出来るよう、参加者一同気持ちを新たに閉会しました。(鈴木 記)



## 《総会後の懇親会》

行事区分：懇親推進

日 時：4月16日(水) 15:00~16:30

場 所：揚州厨房(イオン8階)

参加者：会員21名

通常総会終了後、徒歩で懇親会会場の揚州厨房へ移動していただきました。まず田頭会長から挨拶があり、続いて山下武敏副会長の乾杯で宴会がスタートしました。中華料理が次々に運ばれてきて食べるのが忙しくなってきました。3名の会員からの近況報告や、今後の活動に対する抱負などが話されました。また4月末で退会する会員からも挨拶がありました。田頭会長から信州にある龍岡城址(日本に2つしかない五稜郭のひとつ)等の会員研修について提案があり参加希望者が多数でした。最後に鈴木副会長から懇親会終了の挨拶があり解散となりました。本年度の活動にあたって会員同志のコミュニケーションが大事です。その一助になったのではないかと思います。(澤田 記)



## 《あつぎ飯山桜まつり支援》

行事区分：行事支援

日 時：3月30日(日) 9:00~17:00 (29日(土)は雨天中止)

場 所：飯山観音参道、桜の広場

支援者：3名

今年の桜まつりは、2日間の開催予定でしたが、初日が雨天中止となり、3月30日(日)だけの開催となりました。当日の天気は、気温こそやや低めでしたが、日差しもあり、風も殆どありませんでしたので、花見には絶好の日和でした。肝心の桜の開花状況ですが、私の担当した坂の途中に設置された警備本部から見える桜は、満開とまではいかないものの、思わず感嘆の声を出すお客様がいるほど見事に咲き誇っていました。



人出に関しては、前日の中止も影響したのか、これは私の感覚ですが、例年を上回る本当に多くのお客さんが来られたように思います。また、NHKで放送された「グレートトラバース」で有名なプロアドベンチャーレーサーの田中陽希さんが別のイベントで、飯山白山や七沢森林公園を訪れていたことも影響したのでしょうか、特に午前中は、ハイキング姿の人達の多さも目立ちました。

人出の多さに、用意されたパンフレット類は、観ボラのパンフレットを含め、午前中には無くなり、追加のパンフレットを桜の広場までもらいに行きました。もちろん、お客様が多く訪れて頂けることは、お手伝いをする私たちにとっても嬉しい事ですが、時に「困りごと」も発生します。私達のお手伝いに直接関係のある場面では、一般車両通行禁止の

道一杯に広がったお客様の中を、関係車両が頻繁に通過するので、そのたびに交通整理を余儀なくせざるを得ませんでした。

そうした中、高齢者や障害のある方と一緒に来られたお客様からは、「長谷寺駐車場で  
の駐車は無理でも、せめて送迎だけはさせてもらえないか」とのお願いもあり、私達では  
解決できないので、観光協会の方に知恵を絞って頂く場面も何度かありました。

また、一番多かった質問は、「トイレ」に関わる事です。駐車渋滞に巻き込まれたお客  
様なのか、「一番近いトイレはどこですか?」との質問を数十人の方から頂きました。  
場所を教えると困った顔をするお客様が多かったのですが、確かに私達のいた場所からは、  
金剛寺近くのトイレにも、桜の広場のトイレにも、特に子供達にとっては距離がある様で  
す。午後5時、この日も、沢山の人の笑顔とふれあうことができ、飯山桜まつりが、来年  
以降もっと素晴らしいものになるようにと祈りながら、家路に着きました。(根岸 記)

### 《春の文化財一般公開》

行事区分：行事支援

日 時：3月24日(月) 13:30~15:30  
3月30日(日) 10:00~15:00

場 所：金剛寺

参加者：両日とも 観ボラ3名 市文化魅力創造課 3名

#### 24日 公開前の保管庫周辺の清掃

例年通り保管庫の前の階段回りとの広場の草取りでした。風で落ちた枝も随分片付け  
ました。住職からは市の担当者に大師堂の石仏の屋根が壊れているため注意書きを準備す  
ることの要望が出ていました。2時間程作業をしてお茶とお菓子を頂いて終わりました。

(小林 記)

#### 30日 事前準備・文化財の説明・後片付け

29日は雨天で桜まつりの支援は中止になり、天候が悪く30日も中止?と思案してい  
たら、前日の午後に会長から実施する旨連絡がありました。

当日は10時から市の担当者と一緒に事前準備を始めました。4本の幟を立て、注意書



を大師堂の2箇所に置き、保管庫前の通路下に机と  
イスをセットしてパンフレット類を並べ、それが終  
わると本堂の佛具を保管庫に運びました。運んでい  
ると拝観客から催促され「11時から始めますので  
待ってください」と答える有様でした。佛具を運び  
終わると住職が一旦保管庫に鍵を掛けて扉を閉めて  
「読経を始めるので本堂に行ってください」と促され  
て本堂に行き、靴を脱いで上がりました。

正座して読経を聴きながら順番に焼香をしました。

読経が終わると全員が保管庫に戻りました。既に通路には10人位の拝観客が待っていま  
した。扉を開けて国重要文化財の阿弥陀如来座像前で住職が念仏を唱えてから拝観客に挨拶  
をして始めました。

説明担当の順番は保管庫に近い所に立っていた私から成り行きで始めました。保管庫の前は狭く扉も半分しか開けませんので多人数は無理です。5～6人を1組にしました。2組の説明が終わった時点でSさんから提案があり、1人が1組を説明して終わると交代する方法です。3組毎に担当が回って来ます。保管庫前で説明していない時間帯に給水等も適宜に出来ました。仏像が見えない通路で拝観客が待っている間に、仏像の写真や江戸時代の金剛寺の見取り図等の資料を見せて説明しましたので「通路上」も説明時間になりました。

通路下でパンフレット配布と人数カウントをしている市の担当者に「丁寧な説明をして頂きありがとうございました」とお礼を言って帰られた拝観客もいました。市から支給された弁当を本堂前の車の中で食べようと向かっていたら、本堂に安置されている地蔵菩薩坐像の拝観客から「ありがとうございました」とクッキーの差し入れがありました。「素晴らしい仏像と歴史があるお寺なので、行政側から経済的支援が出来ないのですかね」と言われた拝観客に「宗教法人ですから色々難しい問題があると思います」と手短かに答えるしか方法がありませんでした。拝観客は絶えることが無く休む暇はありませんでした。

15時近くになり区切りの良い所で終了し、後片付けを始めている最中にも、まだ拝観客がチラホラ訪れました。市役所の方に伺うと拝観客数は362名でした。最後に住職と市の担当者に挨拶をして果物やお菓子を頂いて帰宅しました。(寺田 記)

## 《大山桜鑑賞と周辺史跡散策》

行事区分：会員研修

日 時：4月6日(日) 10:00～16:00

場 所：伊勢原市大山周辺

参加者：6名

「大山桜を知っている？それはもう立派な桜でね…」そんなお話を伺ったのは2年ほど前の事です。そして今回、会員研修『大山桜と周辺史跡』が組まれました。しかし当日は数日前から雨予報…気をもみましたが無事に当日を迎え、伊勢原駅からバスに乗車し大山へ。途中少しずつ雲が増えてきましたが、それでも車窓から臨む山々のあちらこちらに、ほわりほわりと淡い桜色の木々をとらえることが出来ました。



大山小学校にて下車、校舎裏の一枚の鉄の橋を渡ると早速、木漏れ陽と共に足元ではミミガタテンナンショウやヒメウス、スミシなどが目を楽しませてくれます。急な山道を登った先にあったのはミツマタと共にふわりと枝を広げた下大山桜です。そして更に登った先には樹齢400年の満開の上大山桜。時の流れを感じさせる苔むした幹から、山肌を覆うように枝を伸ばし、根元には赤いミツマタとシャガが彩りを添えます。桜の枝の先に見える相模湾には、江の島もくっきり見ることが出来ました。

その後冷たい風に吹かれながら稜線を歩き、一番上の大山桜を經由し、急な坂を下り社務局裏、そこから禊の大滝へ向かう予定でしたが、残念ながら大滝への道は通行止め。その頃から雨も降り出し、通りのお店でほんのり温かいおまんじゅうを頂きながら、ホッと

一息つかせていただきました。お店を出ると雨も上がり、川沿いの桜とオオアラセイトウを眺めながら良辨滝、とうふ坂を登って茶湯寺とめぐり、最後は、「大山と言えばお豆腐！」ということで、こま参道のお店にて美味しいお豆腐に舌鼓。帰りには冷たい雨となりましたが、とても楽しい会員研修となりました。（毛利 記）

### 《愛川町山十邸他散策》

行事区分：会員研修

日 時：4月12日（土） 14：00～16：00

場 所：愛川町

参加者：11名

県央やまなみ地域広域連携の企画の一つとして隣町の愛川町を下見しました。4月の定例会後バスセンターからバスに乗り桜台のバス停に着きました。私の考えでは相模飛行場排水路施設跡の下をくぐる予定でしたがバスのコースが違い見ることができず残念でした。

先ず飛行場の通用門跡を、次に通信所跡を遠くから見ました。続けて横須賀水道跡を見て、愛川町で誕生した良い桑の葉が収穫できる「名桑春日

（めいそうかすが）」の碑に寄りました。春日台団地の地名はここから名付けられたとのことです。続いて山十邸に向かいました。

山十邸では大黒柱の太さ、上がり框、梁の立派さに感心し、手入れの行き届いた庭ではここでも「名桑春日」を見ることができました。例年恒例の五月人形の展示には一週間ほど早く、見ることができず残念でした。

続いて中津往還を歩くと、竹林の間から中津川が見えこの中津台地は高いところだと改めて確認し、「中津層の露頭」を見ました。新企画では一度中津川まで降りて厚木がいくつもの台地で出来ていることを伝えたいと思いました。龍福寺では竜宮城風の山門を見て、もう一度横須賀水道がまっすぐに走っているのを確認して今回の下見を終わりました。帰りは三田経由 66 系統のバスに乗ると相模飛行場排水路施設跡を見ることができました。本番では往路にこの66系統のバスに乗るといいなと思いました。（小林 記）



山十邸医薬門



山十邸の室内



山十邸の庭園



## 《 飯山観音の軒唐破風 》

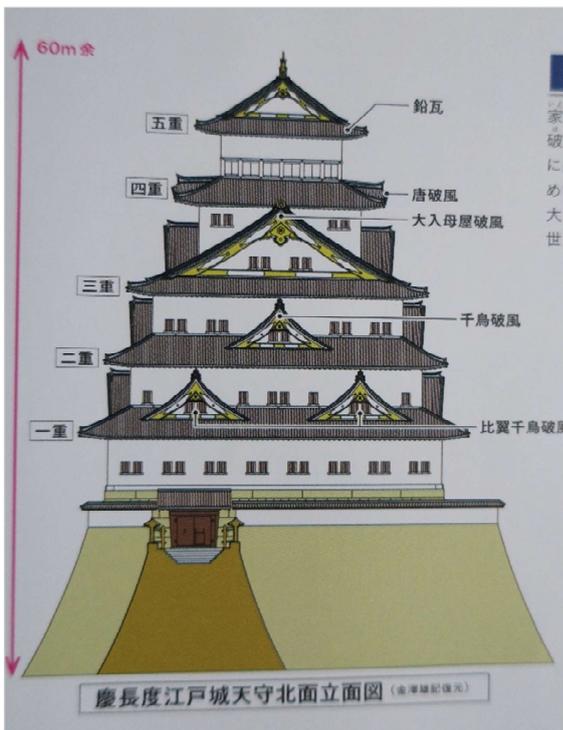
(のきからはる)

澤田 正弘

軒唐破風の「破風」とは、一般的には切妻屋根や入母屋屋根の妻側（棟と直角方向の両側面）の三角形の屋根の部分に相当します。そこに取り付けられた板を破風板といい、屋根と壁の間に位置し重要な役割を果たします。破風板がないため台風で倉庫のトタン屋根が吹き飛ばされたという事例がありますが、文字通り破風板は風を破る役目をしている訳です。



次に軒唐破風の「唐」破風とは、中国江南以南で南宋時代の宮苑図に見られますが、日本の城郭などで広く発展した建築技法です。頂部に弓形の丸みを付けた造形になります。上側に丸みを付けた形状のことを「むくり」、下側に丸みを付けた形状のことを「そり」と言います。



軒唐破風の「軒」については、屋根の端部に付いたものは軒唐破風、屋根の途中に出窓風に付いたものは向（むこう）唐破風と言います。

### 唐破風の種類

- 1) 入母屋破風——特に大きなものは大入母屋破風となります。
- 2) 比翼（ひよく）入母屋破風——主に天守建築で見られます。
- 3) 切妻破風——切妻に作られる破風。一般住宅にもあります。
- 4) 千鳥破風——葺き降ろしの屋根に直接置いて造られます。
- 5) 比翼千鳥破風——千鳥破風を2つ並列に据え置いたものです。
- 6) 向唐破風——屋根本体とは別に出窓の屋根のような形で設けた破風。古風な銭湯や劇場に使われることがあります。

7) 軒唐破風——軒の一部に「むくり」を付けるか、「むくり」を付けた切妻に付けて造られます。

上の図は慶長 12～14 年（1607～1609）頃に徳川家康が築いた江戸城天守を北面からみた復元図です。上から唐破風（西側向き）、大入母屋破風、千鳥破風、比翼千鳥破風が見られます。

（株）デアゴスティーニ・ジャパン、日本の名城から抜粋

## 唐破風の付属の意匠について

- 1)「唐破風棟鬼飾り（からはむねおにかざり）」——唐破風の棟の上部に設置されている鬼飾りで、正面を向いているため存在感が大きいです。
- 2)「懸魚（げぎょ）」——破風板の一番高い場所から垂れ下がる彫刻。文字通り魚を懸けること。拝懸魚（おがみげぎょ）とも言われます。意匠には蕪（かぶら）懸魚、三花懸魚、猪目懸魚、梅鉢懸魚などの種類があります。魚の身代わりを屋根に懸ける事が、水をかける事（防火）の意味として用いられています。同じように屋根に付ける鯨（しゃち）瓦や鬼飾りも同じ役割になります。

## 飯山観音・観音堂の唐破風は

唐破風の種類は 7) の軒唐破風になります。唐破風棟鬼飾りには中央に菊の花紋が見えます。懸魚の意匠は三花懸魚と思われます。江戸時代の観音堂建設当時は宝形造りの屋根と、正面にある向拝（こうはい、ごはい）のみがあり、軒唐破風は後で取り付けられたと伝わっていますので、構造物というよりも装飾の目的で取り付けられたと思われます。

## 最近の活動

日付	場所	内容	参加者
4月8日、20日、27日、5月4日	飯山観音	定点ガイド	会員 延べ 19名
4月 12日	アミューあつぎ	定例会	会員 18名
4月 12日	愛川町	山十郎他散策	会員 11名
4月 16日	アミューあつぎ	第21回通常総会	会員 24名
4月 16日	揚州厨房	総会後の懇親会	会員 21名
4月 21日	温水～森の里	下見「企画ガイド」 春の恩曾川ハイキング	会員 7名
4月 28日	温水～森の里	「企画ガイド」 春の恩曾川ハイキング	会員 7名
5月 7日	睦合西公民館	編集会議	会員 3名

### 編集後記

第21回通常総会が無事終了し、新しい年度の企画ガイドとして「春の恩曾川ハイキング」が行なわれました。鯉のぼりが一杯の恩曾川を溯り途中の本照寺、三島神社、本禅寺のガイドも行ないました。参加者と和やかな雰囲気でおしゃべりをしながら、約7Kmの道程を歩き良い運動にもなりました。次の企画ガイドも頑張りましょう。

編集委員 小林 直樹 澤田 正弘 清田 邦男